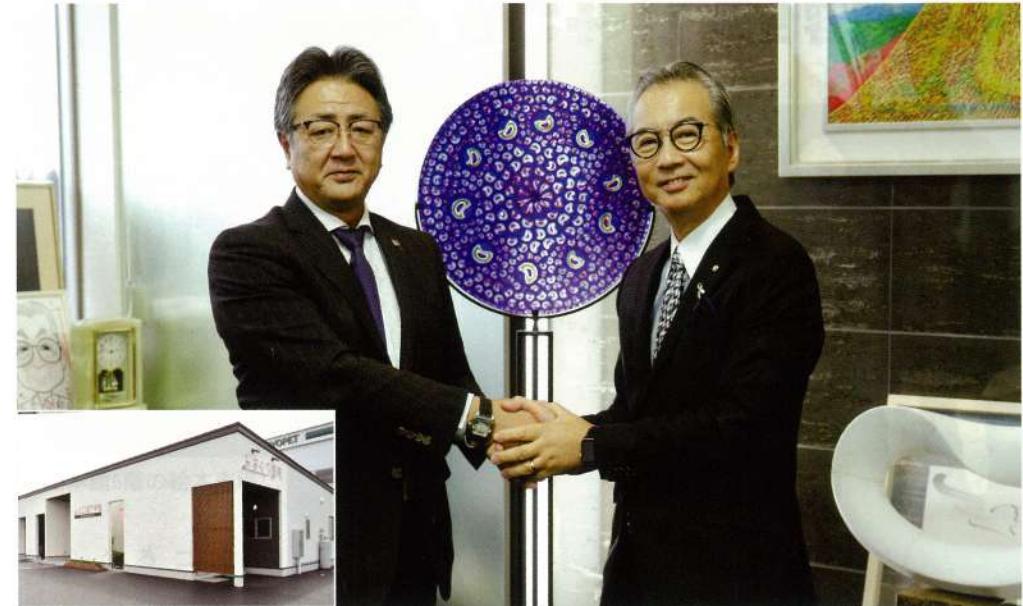


パッケージライセンス契約事業スタート



「みおくり邸宅」のパッケージライセンス契約を締結した株北川の北川宏道社長（左）と株清月記の菅原裕典社長（右）。（清月記社長室で）。北川社長は「素晴らしいコンセプト。来年度には大崎市に2会館目をオープンさせたい」。外観写真は大崎市に8月7日オープンした「みおくり邸宅 中里」

株清月記（菅原裕典社長）は、仙台圏を中心に行っており、同社が運営する邸宅型家族葬会館「みおくり邸宅」の、パッケージライセンス契約事業をスタートさせた。その第1号として大崎市の株北川（北川宏道社長）が契約、同市中里に8月7日オープンした。葬祭業同業者が一つのブランドを共有し、同一ブランドで会館を開設するのは東北では初めてのケース。菅原社長は「葬祭業も商品で選ばれる時代。事業パートナーとなる企業さまには、生花祭壇、靈柩車など創業35年で培ってきた葬儀施行サービスの一部機能も、オプションサービスとして開放していただきたい」と語っている。

「みおくり邸宅」は、故人とお別れの時間を自宅のように落ち着いた雰囲気の中で過ごすことができる。清月記オリジナルのセレモニースタジル。

18年6月に、仙台市泉区加茂に第1号店をオープンさせたから2年3ヶ月の間に、同社直営で仙台市内（中山、栄江、沖野）に4会館を手がけ、今回初めてパッケージングライセンス契約に基づき、株北川が初めて参加、大崎市に中里店を開業させた。

「みおくり邸宅 加茂」の月別施行件数は、月平均で19件は6件、20年は6件と、事業採算ベースとされる月5件を上回っている。

これまで清月記では家族葬をテーマとした葬祭会館「ファミーユ」を太白区に2カ所展開しているが、みおくり邸宅は、「自宅」にいるような雰囲気を大切にして、靴を脱ぐスタイルに拘り、自宅の雰囲気に近い施設デザイン、内装、ファサード（建物正面デザイン）としている点

改修する場合は4500万円、新規建設の場合は6500万円～7000万円と試算している。

菅原社長は、「クオリティ継続や社員教育も含め当社がしっかりとサポート、早く10会館を建設、みおくり邸宅をブランド化したい。異業種からの参入も可能で、期待している」と語る。年内に名取市、来春には青葉区愛子、泉区高森などに新店をオープンさせる予定だ。



「みおくり邸宅 沖野」の外観

に商標登録している。

パッケージングライセンスの内容は、下に示した通りだが、ポイントは、契約者は「みおくり邸宅」ブランドを指定トリリー内で使用でき、さらに同名称の会館を2つまで開設できる。契約期間は10年。

年。ブランドイメージの統一を保つため、会館の内装工事やサイン工事の図面と意匠図のサンプルのサンプルを提供される。実際の建設工事は、施工品質を

一定の水準で維持する必要性から、株清月記指定業者利用を薦めるが、契約者が独自で

施工業者は決めることができる。また、みおくり邸宅で使用者が備品を揃える。さらに、清月記のローコストオペレーションのノウハウも提供する。

みおくり邸宅会館の標準スペックは、敷地面積は990平方㍍（300坪）、延べ面積は198平方㍍（60坪）。会館建設費は、既存物件を改修する場合は4500万円、新規建設の場合は6500万円～7000万円と試算している。

品質継続などもサポート異業種からの参入も期待

「みおくり邸宅」の会館イメージ



「みおくり邸宅」のパッケージライセンスの内容

項目

- ①「みおくり邸宅」商標権の利用許諾 +指定テリトリー内2会館開設権の付与
- ②「みおくり邸宅」の図面、意匠図のサンプル
- ③「みおくり邸宅」で使用する備品リスト
- ④株清月記が販促を行う際のチラシデザインの提供
- ⑤ローコストオペレーションのノウハウの提供

説明

「みおくり邸宅」ブランドを指定テリトリー内で使用する権利に加え、同名称の会館を2会館開設できる権利。許諾機関（契約期間）は10年。

ブランドイメージの統一を保つ為、内装工事及びサイン工事の図面及び意匠図のサンプルを提供。

「みおくり邸宅」で使用する祭壇等の備品類のリストを提供。

弊社が自己判断で販促を行う際、作成するチラシに貴社が運営する会館のデータも無償で掲載する。上記チラシのデザインデータも無償でご提供、自社販促に利用できる。

